

かなえ

第7号(平成24年6月1日)

医療法人社団鼎会 八柱三和クリニック

千葉県松戸市日暮1-16-2 日暮ビル2階 047-312-8830

<http://www.yabashirasawa-clinic.com>



今月号の絵は「21世紀の森と広場」です。澄んだ空気の中にパンジーやデージーのお花畑が色鮮やかに広がっていました。

作:松戸市在住 水彩画家 菅谷功氏

患者ツアーと私

八柱三和クリニック 顧問
千葉大学病院副病院長

高林克日己

私が膠原病ツアーを始めたのはもう20年前になります。ミュンヘンに1年間留学し、その間毎月新八柱台病院の新聞に記事を送っていましたが、それを読んでいた患者さんから、先生は海外旅行に行けるけれど、私たちはとても一人では行けない、私たちが行けるような医師の付きそう旅行をしてくださいな、という話を聞かされました。私が対

象としていた膠原病や関節リウマチは、医療の進歩で難病から慢性疾患としてつきあう病気になってきました。しかしそれでも生活上のさまざまな制約があります。海外旅行もできないわけではないのですが、突然海外で病気が悪くなってしまったらという不安と、ほとんどのツアーのように過激なスケジュールをこなすのは困難と考えて実行できないのでした。私は以前からツアコンまがいのことをして両親や家族を連れてアルプスを歩いていたので、それでは1回やってみようかということになりました。

さて無事パリに着いた翌朝起きてみると、ホテルに残っているのは私と家内だけでした。皆既にど

こかへ出かけてしまったのです。リウマチで足が痛いはずのNさんが遙かかなたの地下鉄の駅から電話をしてきました。パリという不思議な力が彼女たちに元気を与えているのです。そしてこのようなことはその後のツアーでもしばしば繰り返されました。スイスのウエンゲンのホテルについてから、彼女たちはさらに生き生きしました。雄大なユングフラウを眺めるだけで十分に幸せになれるこの村で、安心して幸せ一杯に村や山の中を歩き続けたのです。そして彼女たちの一度だけヨーロッパに行くという願いは、来年もまた来よう、今度はあそこに行きたいという願いに変わっていきました。病気のことで以外に、明日への楽しい目標をもつことができたことが、彼女たちを元気にしたのです。病は気からといいますが、このことは彼女たちを見続けていて私がつくづく感じたことです。そして当たり前ながら彼女らも普通の人間である、いやそれどころか私なんかよりはるかに優れた能力をもった人々であることに気づかされました。普段病院で見せている姿は患者というその人のごく一面でしかないことに多くの医師たちは気づいていません。医師にとり白衣を脱いで彼らに付き合うということには、人前に裸になって飛び出ていくような、ちょっとした勇気が要ります。しかしそのことが私に教えてくれたこともこうして多々あります。そうして気づくともう今年で16回目になります。各地にいる私のヨーロッパの知人を回り、旅程はもちろん、レストラン、ホテルから計画はすべて私が作ります。ずいぶんと食道楽なツアーで、毎日こんなおいしいものを食べてどうなるのかと思いますが、どなたも食事での健康被害の出た方はおりません。もしよろしかったら、あなたもこのツアーに参加されてはいかがでしょうか。(膠原病でなくても構いません)

ピンク、レッド、ブルー・・・リボン運動
看護師 大村智美

5月22日に東京スカイツリーがオープンしました。毎年、東京タワーが10月1日にピンクにライトアップし、11月14日の世界糖尿病デーにはブルーにライトアップします。今年は東京スカイツリーもピンクやブルーにライトアップされるのでしょうか？最近、通販のカatalogやお菓子のパッケージで「ピンクリボン運動を応援しています。」というキャッチフレーズを目にすることが多くなりました。

ピンクリボン運動とは、乳がんの早期発見、早期診断、早期治療の大切さを伝えるシンボルマークです。このリボンを身に付けることで乳がんを理解し、患者さんを支援する意思を表しています。実は、世界中で、ピンクリボンだけではなく、様々な色のリボン運動があります。リボンの色と象徴を、この機会にちょっと調べてみました。
レッドリボン:エイズ患者に差別しない。
共に生き応援していく意思を表し、リボン運動の先駆けと言えるそうです。
ブルーリボン:受動喫煙防止運動。北朝鮮による拉致被害者の生存と救出を信じての意思表示
ゴールドリボン:小児がんの子供達を支える活動
イエローリボン:障害を持つ人たちの自立と社会参加をめざす運動
グリーンリボン:移植医療普及のためのシンボル
オレンジリボン:子どもの虐待防止の情報と気持ちをわかちあうことのシンボル
などなど、他にもまだまだ沢山あります。

以前、私は、大宮駅でゴールドリボンのキャンペーンに出会ったことがあります。残念ながらその時は急いでいたので素通りしてしまいました。今後そのような機会があったら、私のできる事を協力したいと思っています。

大人の絵本のたのしみ
医事課 森元富美子

「トミー・ナマケンボは電気じかけのいえにすんでいます」子どものころの私には、この始まりの一行が魅力的でした。「ものぐさトミー」(デュボア作・岩波書店)は発行からもうすぐ半世紀を迎える絵本です。お風呂も着替えも食事だって、すべて自動装置がやってくれるおうち。でもある日大雨と台風がきて、機械が4日間も止まることに・・・。
そのあと彼に訪れる出来事に、気の毒になりながらも笑ってしまいます。
小型の絵本ながら、我が家の本棚の中では存在感が大きく、深読みしようとする大人の視線を、明るい色調であっさりかわします。
あこがれのまなざしで眺めていたかつての私は、本好きというよりトミーに共感する、ただのナマケモノだったのかも。
大きい書店、図書館などにおいてあります。機会があれば手に取ってみてください。

第16回 高林ツアーのお知らせ

(正式な日程表・パンフレットはクリニックにありますのでスタッフにお声かけください。)

平成24年9月8日出発 17日帰国

成田→ウィーン→ベルリン→ライプチヒ→ドレスデン→ライプチヒ→プラハ→ウィーン→成田



ベルデペーレ宮殿



ウィーン国立歌劇場



ノイシュティフトのホイリゲ



聖トーマス協会

ベルガモン博物館



写真は過去の高林ツアーで、先生ご自身が撮ったものをお借りしました。
「今回はドイツ・チェコ・オーストリア音楽の旅」をテーマに企画されています。もちろん絵画など、その他芸術、歴史、食事、どれも素晴らしいものです。
今回は先着15名となっています。ご希望の方はお問い合わせください。

編集後記

6月というと梅雨のイメージですね。

雨が降ると、クリニックにお出でになる患者さんにとっては足元が悪く大変なことと思います。どうぞお気をつけていらしてください。

今回は八柱三和クリニックの顧問をしてくださっている千葉大学病院副院長の高林克日己先生に記事をいただきました。膠原病の専門家である高林教授主催の「患者さんのためのヨーロッパツアー」は今まで15回、のべ200名以上の患者さんが参加しています。毎回、大好評です。今回も楽しみにしている方が沢山いらっしゃいます。八柱三和クリニックのスタッフは患者さんから生き生きとした旅行のお話をお聞きするのが嬉しいです。 総務:中野三代子

八柱三和クリニック診療医師担当表

		月	火	水	木	金	土
乳腺外科	午前	渡辺 修	渡辺 修	(手術)	渡辺 修	渡辺 修	渡辺 修
	午後	渡辺 修	渡辺 修		(手術)	渡辺 修	
整形外科	午前		幸島雄太		金子 晴香		早田浩一郎 (2, 4)
	午後	小酒井治 (2, 4)	幸島雄太		金子 晴香 (2, 4)		
内科 1	午前	斉藤丈夫	斉藤丈夫	斉藤丈夫	斉藤丈夫	斉藤丈夫	斉藤丈夫
	午後	斉藤丈夫		斉藤丈夫	(在宅)	斉藤丈夫	
内科 2	午前		渡辺聡枝	渡辺聡枝	渡辺聡枝	渡辺聡枝	杉崎良親
	午後		渡辺聡枝	渡辺聡枝	渡辺聡枝	(高林克日己)	
内科 3	午前	鈴木明子		鈴木隆弘	鈴木明子		高林克日己
	午後	鈴木明子	仲野総一郎		鈴木明子	鈴木明子	
胃カメラ	午前	渡辺英二郎		鈴木明子		鈴木明子	
大腸カメラ	午後	渡辺英二郎		鈴木明子		渡辺聡枝	

《お知らせ》

乳腺外科:渡辺修医師

乳腺外科学会出席のため6月28日(木)~6月30日(土)まで休診とさせていただきます。

代診はありません。

内科:鈴木明子医師

学会出席のため6月29日(金)午後の外来を休診とさせていただきます。

代診 渡辺聡枝医師

6月2日(土) 三和さくら会主催の「みんなで歩こう会」が行われます。

9:30 クリニックに集合し21世紀の森と広場まで歩きます。運動の効果を実感しながら松戸の自然を楽しみましょう。